

未来意志で地域を動かす

— 前代未聞の人口ゼロからのまちづくりへの挑戦 —

令和4年1月

一般社団法人 まちづくりなみえ

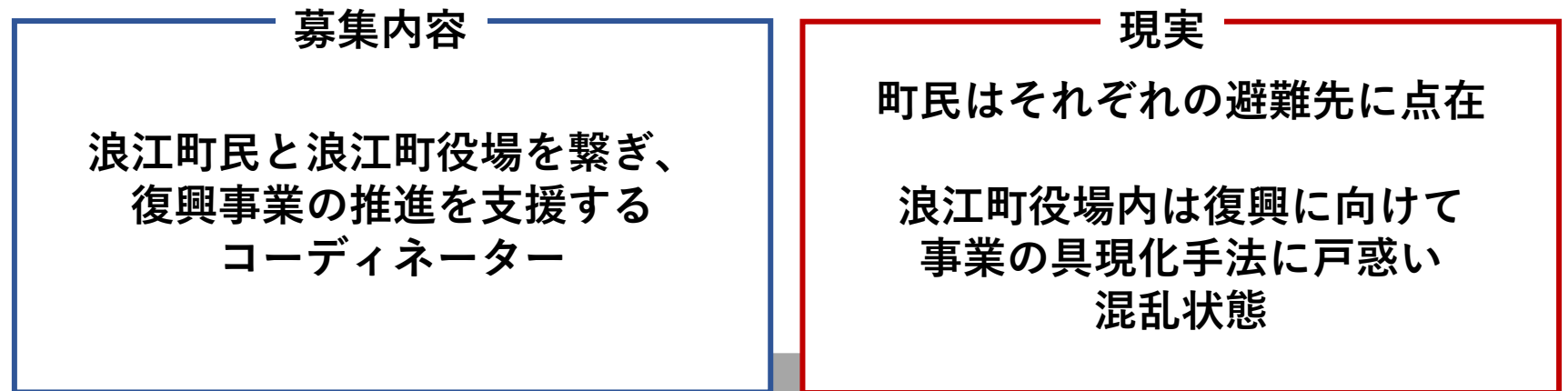
菅 野 孝 明

震災当時の想い～浪江町に来るまで

昭和44年 川俣町生まれ
建設コンサルタント、進学準備教育企業で勤務

平成23年 東日本大震災
「今、自らやりたいことをやっているか」・・・自分への問い

平成24年 NPO法人ETIC.「右腕プログラム」で 浪江町復興支援コーディネーター
に応募し採用される。



まずは職員の話聞き横串を指す・役場内の復興事業の進め方を整理・支援

浪江町で起きていること

- ① 広域分散避難・6年間人口ゼロ・8割の避難指示区域
⇒ 時間の経過とともに、生活・心の変化
- ② 生まれたことば : 全ての町民の暮らしの再建・町残し
- ③ 変わる役場・増える人材・膨らむ復興事業
- ④ 既存のまちがある
- ⑤ コミュニティの激変（隣が見えない・元は6地区49行政区）
- ⑥ 商圏を失う・働く場を失う
- ⑦ 農林水産業との向き合い方（出口はあるのか・高い兼業農家率）

自身が取り組んできた、ゼロからのまちづくりのしかけ

①役場の内部連携の推進（H24.11月～）

- ・ 横串を刺す動き
- ・ 職員のチカラを引き出す
- （全体を見る進行管理・支援役）

②中間支援を担うキーマン探し・官民協働の足固め（H26.11月～）

- ・ 交流・情報発信拠点（道の駅含む）整備の決定・まちづくり会社設立の必要性
- ⇒ “民間の町民”からキーマンを探し、役場職員として採用（官民を知る）

③“地域づくり”コーディネーターの企画と事業化に向けた調整（H29.2月～）

- ⇒ 6つの地区を大切に。町民のやりたいことを形に。

④町民が活躍する仕組みの検討（H29.2月～）

- ・ シルバー人材センターが再開困難 ⇒ まちづくり会社が担い、いずれは再開へ

⑤まちづくり会社の設立（H30.1月～）

- ⇒ チャレンジを生み出していく！

⑥交流・情報発信拠点（道の駅）の整備・運営へつなぐ



(一社) まちづくりなみえの事業①～③

①公共施設等管理事業→町民雇用の実現

- ・登録制による町民雇用により実施
- ・登録者を中心とし、将来的には団体を組成して独立
現在、パート従業員として20名程度の雇用を実現
⇒業務継承（シルバー人材的団体再構築）の課題



②移住・定住等相談事業

- ・町からの委託事業として実施。令和3年7月より、移住・定住事業の本格化
- ・町の地域おこし協力隊「なみえプロモーション課」の活動支援（令和3年4月開始）

・今大切なこと:『一人を大切にする』対応(たらいまわしにしない)

③地域づくり事業(町内コミュニティ再生支援)→地域コミュニティ再生・地域活動の実現

- ・町内コミュニティの再生支援（集まる場の創出・住民自治機能再構築等）
- ・ふるさとでの交流・話し合いの場の創出支援
- ・伝統文化・芸能・アーカイブに関する事業支援
- ・行政区活動の支援など

<実施状況>

- ・地域づくりコーディネーター4名を採用（4名募集中）
- ・町民への訪問を実施中。また、地域の意向による交流などの事業創出のため、集会の企画・財源検討等の支援を実施中。
- ・各種団体・民間企業等との協働による地域活動支援を模索中



(一社) まちづくりなみえの事業④～⑤

④ イベント事業→ふるさとでの交流の場の創出、 来訪者（交流人口）増加の実現

- ・町のイベントの請負・集客できるイベントを積極的に誘致
- ・ふるさと交流に繋がるイベントを地域の声を聴きながら創出・支援

⑤ 観光・学びのツアー事業→来訪者（交流人口）増加の実現

- ・地震・津波・原発事故の複合災害による“今のまち”を資源としたまちづくりとツアー企画・実施

- ・福島県・観光物産交流協会との連携による教育ツアー実施・人材育成プログラムの推進（ホープツーリズム）
- ・地域の観光関連プラットフォームの検討（福島県・ふたばエイト）
- ・旅行会社など連携した観光ツアーの検討（H.I.S等と実施）
- ・町の観光おもてなし会議への参画（コンテンツ造成など）



(一社) まちづくりなみえの事業⑥～⑦

⑥道の駅なみえ管理運営事業・・・交流と賑わいの拠点（令和2年8月1日プレオープン）

- ・あらゆる方に来ていただく場所として、食・モノ・場所を提供。
- ・町とともに、変化・成長を続ける。
- ・大堀相馬焼体験工房・地酒製造施設を隣接
- ・無印良品の出店（令和3年3月20日グランドオープン）



⑦その他

にじいろこども園・なみえ創成小学校・中学校への支援活動
（ハロウィンイベント・クリスマスイベントの開催・協力）

【観光関連の新たなチャレンジ】

- ・イノベーション・コースト構想事業での『ワーケーショントライアル』の実施
- ・町内の観光資源を活用した観光コンテンツの造成
もともと観光としては有名ではなかった
⇒だからこそ、可能性がある
海と山の近さ ⇒ 『丸ごと外遊び』の実現に向けて

- ①様々なキャンプスタイル
(海側：グランピング、山側：オート・ソロキャンプ)
- ②海釣り・川釣り
- ③カヌー
- ④トレイル歓迎のまち
- ⑤サイクリング歓迎のまち
- ⑥防災キャンプ
- ⑦ジップライン

やれることは、まだまだある！
これらを道の駅、町民、商業とつなぐ



2021年10月～12月の土日に開催!!

上記期間のうち土日に計5回開催いたします。具体的な開催日時については募集要項をご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により日程等の変更場合があります。予めご了承ください。

行種
1日目：町内視察・自由時間
2日目：体験・ワークショップ
※レンタサイクル・レンタカーあり

お問い合わせ・お申し込み
takaaki.kanno@mdnami.jp (担当：菅野)
主催：一般社団法人まちづくりなみえ
協力：なみえプロモーション課

詳細はコチラ！



浪江に向き合う原点、自分自身の軸

3.11以降、何がしたいのか

- ・ 今、この瞬間を大切に生きる
- ・ 自分がやりたいことへのチャレンジ

①状況を把握する（必要な支援を現場でつかむ）

- ・ 人 ・ 人間関係 ・ 組織の動き ・ 経緯 ・ 計画など
- 「今どうなってるか」…ここが始まり

②情報を集める

- ・ 関連する会議への参加 ・ 現地調査 ・ 各種事業要綱 ・ 他市町村事例など

③可視化する（共に考える材料）

- ・ 事業構想案、事業全体スケジュール、比較できるもの、1枚で表現

④対話する

- ・ 場づくり ・ タイミング ・ 言葉を選ぶ

⑤助言する・提案してみる

- ・ 建設技術に関すること ・ 話し合う過程での工夫
- ・ 関連機関との調整の進め方など

【自分自身の軸】 自分・相手・まわりを同時に大切にする。

【行動する上で大切にしていること】

- | | | |
|------------------|--------------|-----------------------|
| ・ 自立支援（変化していくもの） | ・ 対話する機会を増やす | ・ 人が動く材料をそろえる（作り過ぎない） |
| ・ 先ず聴く | ・ 視点を変える | ・ タイミングを見逃さない |
| ・ 先を考える | ・ 疑う（問いを持つ） | ・ 手間をかける |
| ・ 現状を受け止める | ・ 俯瞰する | ・ ゆるしの心 |

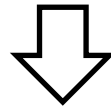
創りたい浪江・未来

○本質的な“協働”を創り出す

“町残しとまちづくり”・・・大切にしていくこと・もの
捨てること・もの
新たにつくりだすこと・もの

⇒①行政・町民・行政区や自治会・町民団体・町内事業所との『丁寧な対話』

②“ゆるやかな”関係から始まる交流人口・企業・団体等とのつながりの創出・継続・拡大



①と②でやりたいこと・やれることを発見し、つなぎ合わせ、実現していく。
(課題先進地『浪江』での取り組みが、日本・世界のこれからを動かす)

■チャレンジ (想い)

今の浪江で、“楽しい” “やりたい” ことを“どうやったらできるか”

⇒ 本気で全力で楽しんでやる

- ・ニッチをねらう
- ・人が少ないなら、一人何役でも
- ・“マイナス”こそねらい目
- ・対立も一緒にやるチャンス

⇒ 何ができるか考えたい
多くの人・団体・企業と
コラボレーションしていきたい

【プラス思考の町民気質という強み】

- ・お金がないなら工夫して稼ぐ
- ・変化でプラスをつくる (変化を楽しむ)
- ・不便さを承知で帰還した町民の存在

私にとって浪江とは、チャレンジできる町であり、生き方を気づかせてくれる町
無限にあるチャレンジによって、自己実現できる浪江を創りたい